

---

# どしゃぶり

シャー芯

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

どしゃぶり

### 【Nコード】

N4693G

### 【作者名】

シャー芯

### 【あらすじ】

遠い未来。感情のみを残し、体はすべて機械で出来た女がいた。その女に恋をした不良品のサイボーグ。そのサイボーグは、元々3人の人間をベースに造られていた。

きみは僕が消えて喜んでいた。 貴方は 私が消えて喜んでいま  
すね。

「愛してる」

古ぼけたカセットレコーダーから聞こえる君の声。

僕が消えて、私が消えてなくなった今、貴方は俺を愛しているの  
ですか？

くるくると、雨音と紅いレインコートを遠心力で身体から引き離  
そうとする僕。

私は、歌いますわ。 雨音と共に。

「素敵ね」

彼女はどこか呆れたように、遠い感情からの笑顔を俺にくれた。  
世界がすべて海に帰るその日。 俺は初めて泣いた。

銃の引き金が軽くなった時代。 僕が笑えば、隣の奴は死んでい  
く。

「早いか遅いかだけの違いなんだよ」

そう、世界は意外と単純なのね。 私は悲しくなんて無いわ。  
大きな枯れた木下で、彼女は声を忘れた。

俺は銀色に輝く拳銃の標準を彼女へ。 ……弾は入っていない。

空から落ちる水に、俺は顔をしかめる。

灰色の空は地上を這うように俺たちを睨み付ける。

「あなたに心は残っているの？」

彼女は俺の、僕の、私の額に銃口を当てる。

金属が奏でる静かな死の呼び鈴。 引き金は、轆かれた。

「お手上げだ」 俺は口元を一方だけ引き上げ、脳味噌を覗き込むように上を見上げ、海へと沈んでいく。

思い出という思い出はないのだけれど、

僕は虹を君と一緒に見た暑い日を思い出している。

言いたくなかったの。 だけど、これを言わなくちゃ帰れないの。

「貴方、強がりなのね」

……俺は、思い出せない。

彼女との日々。 友人の顔。 自分の生きる意味。

目の前に現れた、金と銀の激しいフラッシュ。

見開いた瞼。 眼球に落ちる土砂降りの雨。 半開きの唇。

ニコチン中毒で真っ黒になった吐息。

いま、止まりそうだ。 肺と心臓と動脈が、息切れしている。

呼吸が止まれば、エコロジスト達は喜ぶだろう。

「これでも、愛してたんだぜ」

男の最後の醜い捨て台詞。 彼女は眉間に皺を寄せる。

俺は弾の無い銃を彼女の胸に向けた。

その瞬間、世界は暗くなった。

彼女の瞳から、マスカラの黒い涙が……。

僕は、きみに会えて本当に良かったと思ってるんだよ。

私は、貴方に会えたこと、光栄だと思っているわ。

「そんな、言葉置いていかないでよ」

彼女は雨水と共に大地へと帰っていった。

俺は、寂しい。 貴方と出会ったこの人生が。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4693g/>

---

どしゃぶり

2010年12月9日14時51分発行